

《単元・単位時間構造図について》

生徒の思考力・判断力・表現力等を育むためには、課題解決学習に取り組むことが重要です。「構造化」とは、ものごとの役割や相互の関係を明らかにして位置付けていくことです。単元や単位時間を構造化することで、学習活動の全体像が把握しやすくなり、課題解決の過程が明らかになって、見通しをもった指導ができるようになります。また、構造図の中に「解釈」「説明」「論述」という言語活動を位置付けることにより、これらの活動の充実を図ります。

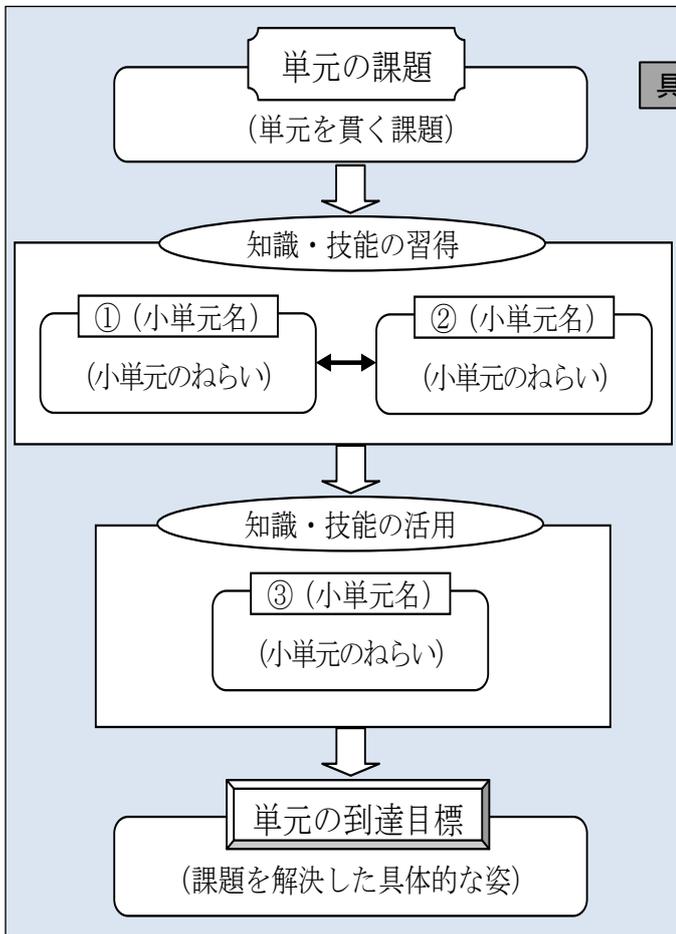
1. 単元構造図

(1) 単元とは

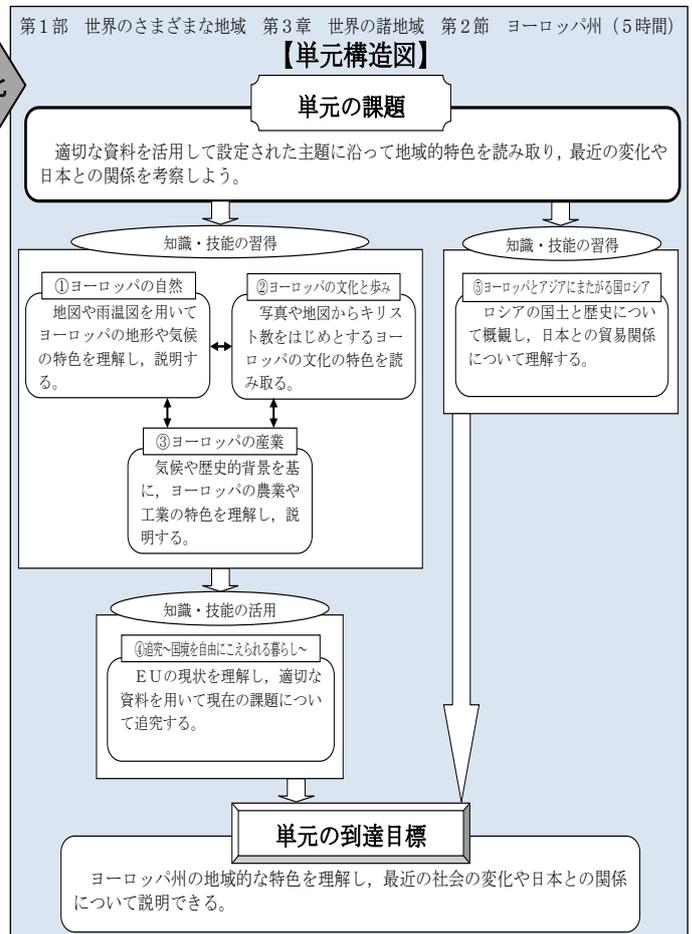
単元とは「学習させるべき内容のひとまとまり」のことです。中学校学習指導要領では、この単元に当たるものを項目と呼んでいます。ここでは、大項目、中項目、小項目を、それぞれ大単元、中単元、小単元と呼びます。小単元が、そのまま1単位時間に当たる場合もあります。

(2) 単元構造図とは

単元構造図とは、大単元における各中単元（あるいは中単元における各小単元）について、単元のねらいを用いて、その関係を位置付けた図です。単元には知識・技能の習得を主なねらいにするものと、その活用を主なねらいにするものがあります。それを、知識・技能の習得→知識・技能の活用という流れで縦に位置付け、白抜きの矢印で表しました。それぞれのねらいを達成することで、単元を貫くねらいが定着できると考えます。また、各単元で習得した知識や技能を一部活用したり、発展課題と関わったりする場合は、黒い矢印で表しました。各単元の学習を始めるときには、この図を作成し生徒に配布すると、主体的な学習を進めることができます。下の図は、その具体例です。



< 単元構造図 (基本形) >



< 単元構造図 (具体例) >

2. 単位時間構造図

(1) 単位時間構造図とは

単位時間構造図とは、各単位時間の学習活動の流れを、課題解決の四つのプロセスで表した図です。各単位時間の授業展開を考える際に活用します。各プロセスには、そこで行いたい言語活動、キーワード（習得させたい知識）、参考資料、指導のためのワンポイントアドバイスなどを示しました。下の図は、その基本的な形と具体例です。

(2) 各プロセスについて

①プロセス1：課題設定

課題を設定するためには、対象となる社会的事象についての情報が必要になります。プロセス1では、教科書などの資料から基本情報を読み取って解釈し、全体場で確認します。これがキーワードとなり、課題設定することができます。

②プロセス2：仮説立案と検証

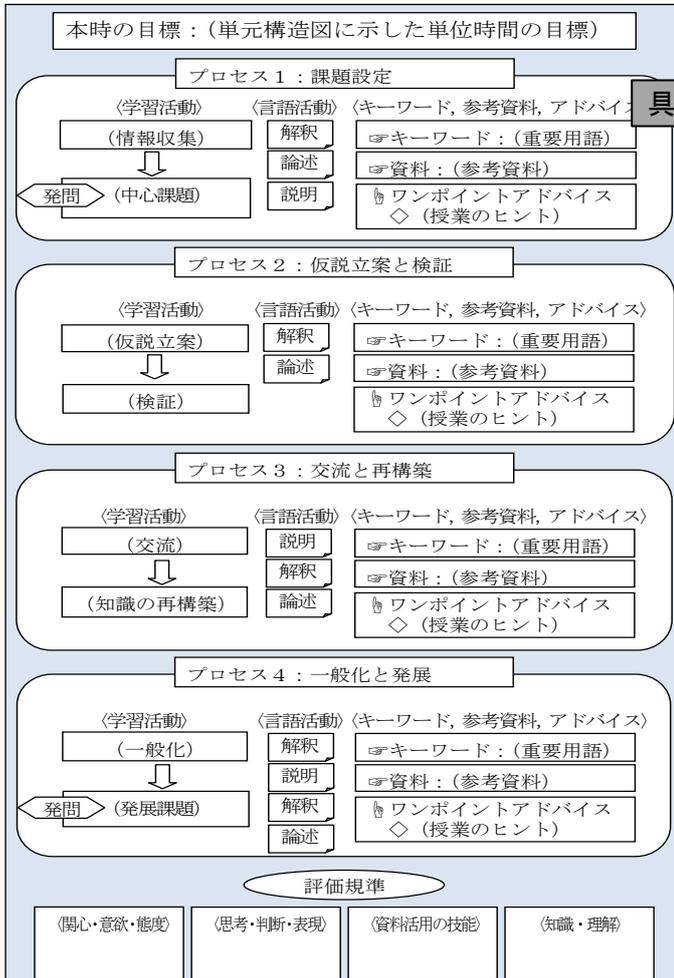
設定した課題について予想し（仮説立案）、その根拠となる資料を探します（検証）。その後、自分で考えた結果を、プロセス1で挙げたキーワードを活用し、文章で論述します。

③プロセス3：交流と再構築

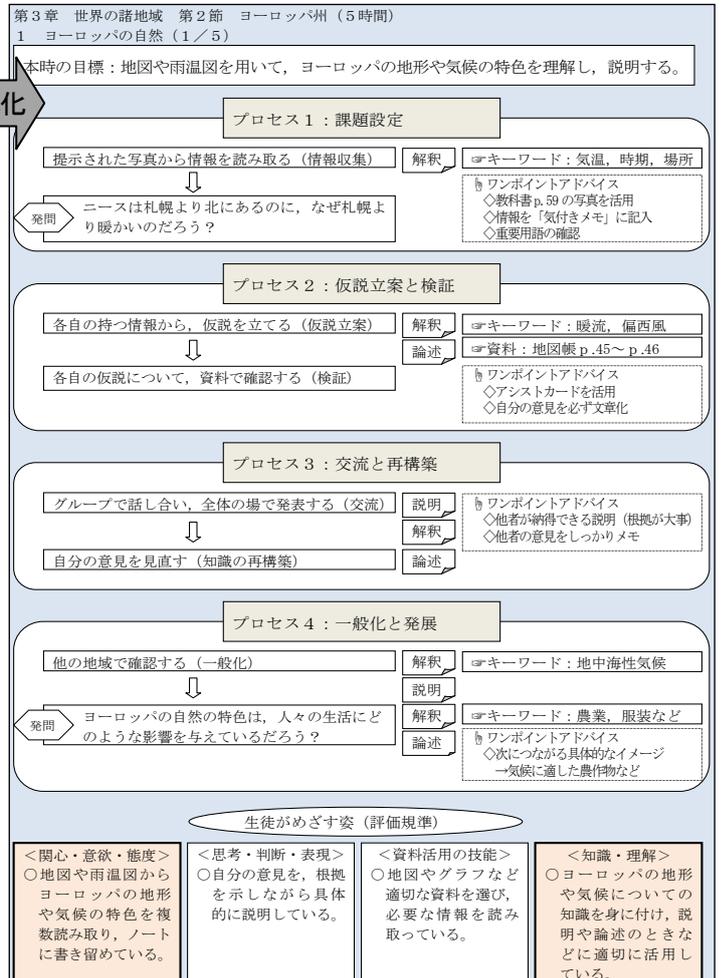
小グループで、プロセス2で文章で論述した意見を、お互いに説明し交流します。そして他の生徒の意見を聞いて、自分の考えを見直します（知識の再構築）。その後、交流した結果について、全体場で交流します。この一連の交流を「学び合い学習」と呼びます。「学び合い学習」では、互いの意見を交流することにより、多様な考えに気付き、思考を広げたり深めたりすることをめざします。

④プロセス4：一般化と発展

その時間に習得した知識を、他の社会的事象に当てはめることで概念的な知識にします（一般化）。更に、その時間の学習活動を通じて新たに考えた課題を挙げ、他の学習内容と関連付けます（発展）。



<単位時間構造図 (基本形) >



<単位時間構造図 (具体例) >

《単位時間構造図の活用マニュアル》

単位時間構造図に基づいて授業を行う場合の手順について説明します。単位時間構造図は、各単位時間の学習活動を構造的に表したもので、学習指導案のように、予想される生徒の反応や細かい留意事項などについて、示されていません。下のマニュアルを参考に、学習活動の内容や学級の状況に合わせて、具体的な授業展開をイメージし、指導を行うようにしてください。

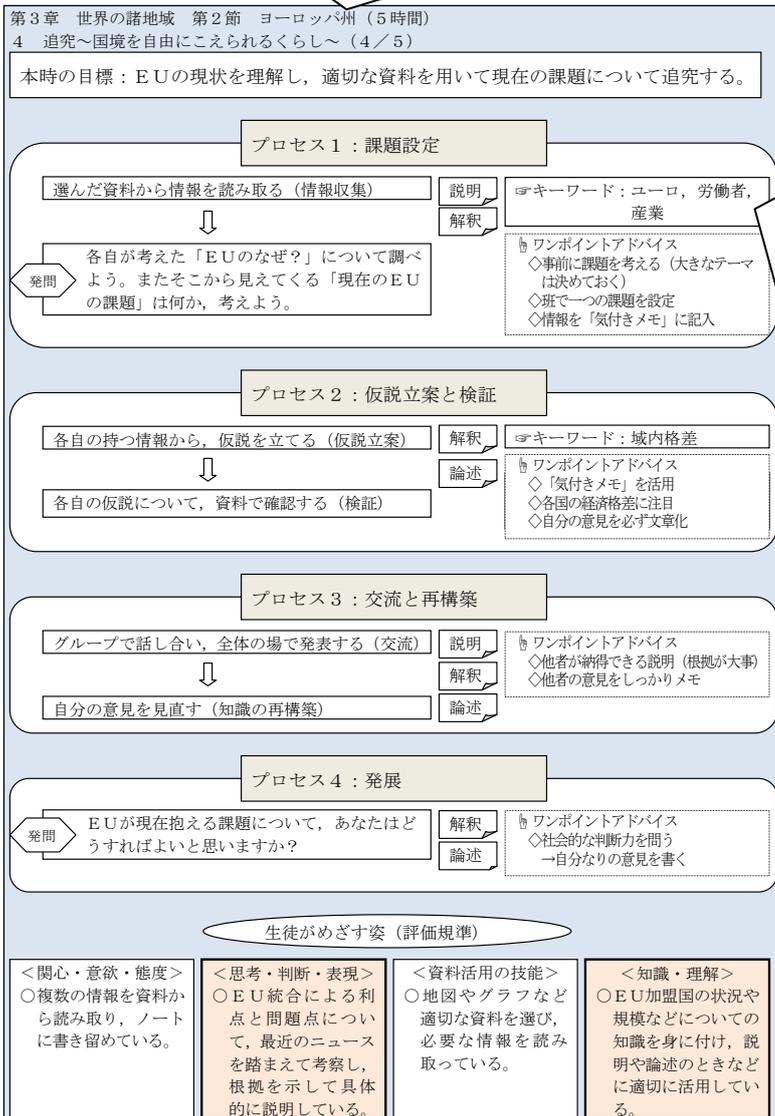
1. 各プロセスの時間配分

各プロセスの適切な時間配分の目安を、次のように考えます。

- プロセス1（課題設定）： 5～10分
- プロセス2（仮説立案と検証）： 15～20分
- プロセス3（交流と再構築）： 15～20分
- プロセス4（一般化と発展）： 5～10分

しかし、活動内容によって各プロセスの軽重は変わってきます。この例では「一般化」の過程を省いてありますが、一つのプロセスを全て省くことも考えられます。

※各プロセスの内容については、「学習の流れがみえるアシストカード」と「課題解決の方法がみえるアシストカード」も参照してください。



2. キーワードの活用

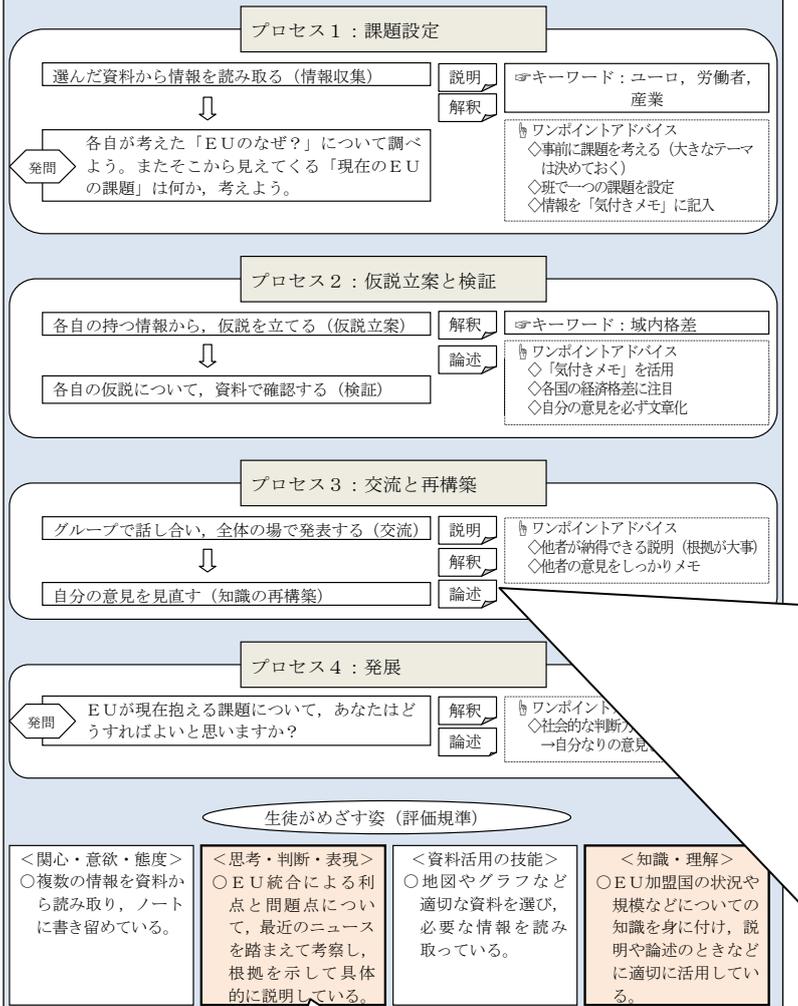
知識は、活用することで身に付きます。習得させたい知識については、以下の手順で理解を図ります。

- ①授業の最初に、生徒が教科書などの資料から基本情報を読み取り、ノートの「気付きメモ」欄に記述します。それを全体場で確認し、キーワードとします。このキーワードが、習得させたい知識です。
- ②キーワードを用いて、自分の考えを文章で論述したり、「学び合い学習」で説明したりする中で、理解を深めます。その後の全体交流の場で、活用されていないキーワードがあれば、活用をうながすようにします。

※習得の状況を確認するために、キーワードを示した上で、自分の考えを文章にまとめるような小テストを行うことも有効だと考えます。

※上記の気付きメモについては、「思考の過程がみえるアシストカード」を参照してください。学び合い学習の進め方については、「学び合い学習の約束」を参照してください。

本時の目標：EUの現状を理解し、適切な資料を用いて現在の課題について追究する。



3. 言語活動の例

言語活動として「解釈」「説明」「論述」を位置付けました。ここでは、これらの言語活動を次のようにとらえています。

- 解釈：読み取った情報の意義や特色、相互の関連について、根拠を明らかにしながら自分の考えをまとめること
- 説明：解釈した内容を他者に論理的に説明し伝えること
- 論述：解釈した内容を自分の考えとともに文章に書くこと

学習活動の内容により、位置付ける言語活動も変わります。次に、生徒が行う各言語活動の具体的な例を挙げます。

< 解釈 > (資料を読み取る)

統計資料からその国の国民所得を読み取り、経済状態を考える裏付けにする。

< 説明 > (根拠を示して伝える)

「EUでは、域内格差があり、経済的に豊かな地域への労働者の流入が多いと考える。なぜなら、ドイツへの労働者移動の多いポーランドは一人当たりの年間国民所得が11880ドルであり、ドイツは42440ドルであることが、地図帳の統計資料から読み取れるから。」

< 論述 > (自分の考えを文章化する)

上記の「説明」のように、キーワードを用いて自分の考えをまとめ、文章化する。

4. 評価規準の作成

ここに示した評価規準は、学習活動における生徒の「行動目標」です。評価の観点から見た、生徒の具体的な姿を表しています。そのため、京都市スタンダード指導計画に示されたものとは、表現が異なります。次に例示するのは、地理的分野における、それぞれの観点についての評価規準の基本形です。

「関心・意欲・態度」：複数の情報を資料から読み取り、ノートに書き留めている。

「思考・判断・表現」：自分の意見を、根拠を示しながら具体的に説明している。

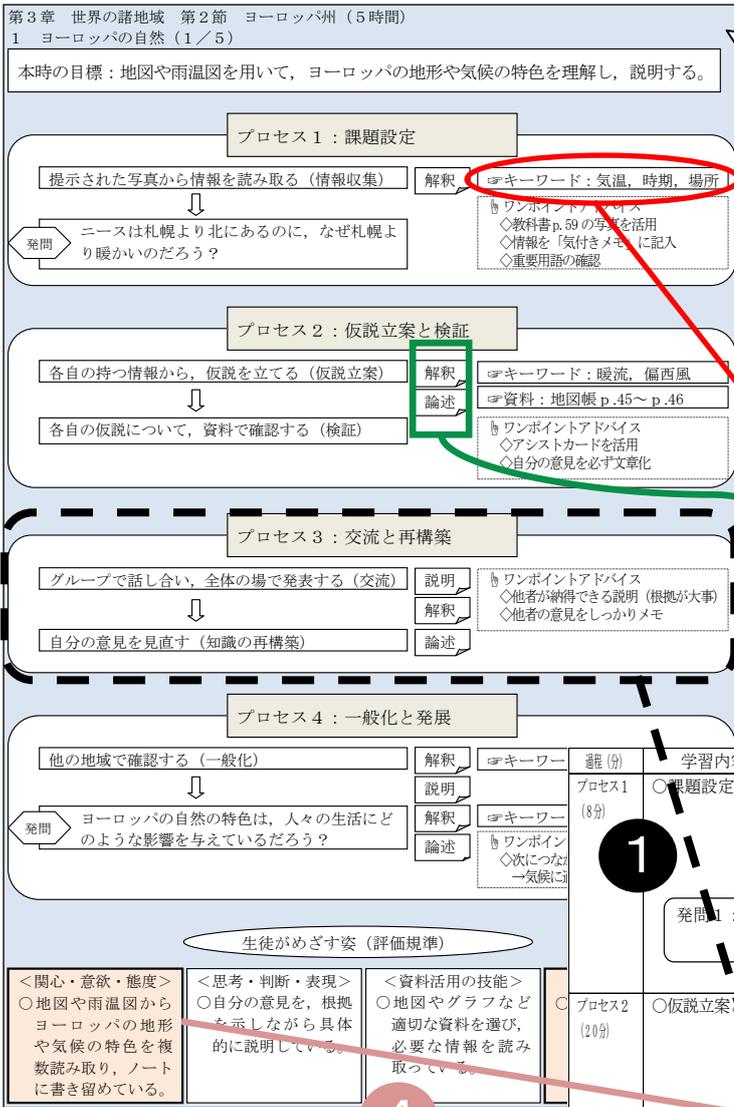
「資料活用の技能」：地図やグラフなど適切な資料を選び、必要な情報を読み取っている。

「知識・理解」：必要な知識を身に付け、説明や論述のときなどに正しく使っている。

各单位時間構造図では、学習活動の内容に沿って評価する観点を絞り込み(着色してある観点)、具体的な内容を示しています。それ以外の観点については、基本的な形として挙げてありますので、評価を考える際の参考にしてください。

この評価規準を、授業の最初に「めざす姿」として活動内容とともに生徒に示すことで、見通しをもった学習活動が展開できると考えます。

【単位時間構造図】



5. 単位時間構造図から学習指導案へ
単位時間構造図から、実際の授業展開をイメージして、学習指導案を作成します。下は、その一例です。

- ①学習過程は、プロセス1～4に対応して作成します。
- ②キーワードは、留意点の中に「～を確認する」というような形で挙げます。
- ③言語活動は、意識して取り組めるように、学習活動の中で挙げます。
- ④評価規準は、その評価場面で評価方法とともに挙げます。

【学習指導案 (本時案)】

割合	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価 (評価方法)
プロセス1 (8分)	○課題設定	○本時の目標とめざす姿を確認する。 ○課題を把握する。 ・提示された2枚の写真から、出来るだけ多くの情報を読み取る。 ・各自ノートに記述し、全体場で発表する。	○本時の目標とめざす姿のカードを黒板に貼る。 ○教科書 p.59 の写真を利用する。 【アシストカード活用】 ○気温、時期、場所などに注目し読み取るようにする。 ○地図でニースと札幌の位置を確認する。
プロセス2 (20分)	○仮説立案・検証	○推理して確かめる。 ・自分なりの仮説を立てて確かめる。 資料を使って確認 論述 解説	【アシストカード活用】 ○地図帳 p.45～p.46 を参照する。 ○資料から気付いたことや自分の意見は、必ずノートに書くように指示する。 <関心・意欲・態度> 地図や雨温図からヨーロッパの地形や気候の特色を複数読み取り、ノートに書き留めている。(発言、ノート)
プロセス3 (15分)	○交流と再構築	○グループで交流する。 ・グループで各自の意見を交流し、気付いたことや質問を出し合って検討し、自分の意見を見直す。 説明 解説 論述 ○全体で交流する。 ・全体場で各グループの意見を交流し、気付いたことや質問を出し合って検討し、自分の意見を見直す。 説明 解説 論述	○全員が自分の言葉で発表できるようにする。 ○自分と違う意見はノートに書き留めるように指示する。 <知識・理解> ヨーロッパの地形や気候についての知識を身に付け、説明や論述のときなどに使っている。(発言、ノート) ○各グループの発表内容を板書する。 ○気付いたことや質問したいことなどを、ノートに書き留めておくよう指示する。
プロセス4 (7分)	○一般化と発展	○一般化を確認する。 ・他の地域でも同様の事象があるのかを確認する。 解釈 説明 (一般化された知識) 暖流と偏西風の影響を受ける地域は、同緯度の地域よりも温暖である。 ○資料から気付いたその他の自然の特色をあげる。 ・メモを参考に発表する。 発問2：「ヨーロッパの自然の特色は、人々の生活にどのような影響を与えているだろうか？」 ○様々な面から予想し、ノートに書き挙げる。 解釈 論述	○「暖流 (北大西洋海流)」と「偏西風」の影響であることを確認する。 ○地図帳 p.11～p.12 で、この気候が「地中海性気候」と呼ばれることを知らせ、同じ条件のアメリカ西海岸やオーストラリア南西部が同じ気候であることを確認する。 ○アルプス山脈、西岸海洋性気候など、メモを参考に挙げるようにし、板書する。 ○農業、服装など、いろいろな角度から考えるようにする。 ○次の課題につながることを意識するようにする。

<参考文献>

- (1) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』2008.9
- (2) 文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び学習指導要領の改善等について (通知)」2010.5
- (3) 文部科学省「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【中学校版】」2011.5
- (4) 国立教育政策研究所「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 (小学校社会科)」2011.11
- (5) 京都市教育委員会『京都市スタンダード 指導計画 社会』2012
- (6) 岩田一彦『社会科固有の授業理論・30の提言—総合的学習との関係を明確にする視点—』明治図書 2001.10
- (7) 北俊夫『社会科学力をつくる“知識の構造図”—“何が本質か”が見えてくる教材研究のヒント—』明治図書 2011.7